宇久中だより2018

佐世保市立宇久中学校　学校通信
（平成３０年９月１号）
文責　校長　田雑　健
平成 30 年 9 月 7 日(金)発行

学校教育目標　：　ふるさとを愛し、主体的に学習し、自らの判断で正しく行動できる生徒
めざす生徒像　：　素直で心豊かな生徒　・　自ら考え、主体的に学ぶ生徒　・　強くたくましい生徒
宇久中生徒の５励行　：　心のこもったあいさつをする　授業に集中する　生徒会活動や部活動に励む
大きな声で校歌を歌う　清掃活動に力を入れる

前期後半スタート

夏休みも終わり、前期後半がスタートしました。部活動に駅伝練習、体育大会練習と休み中もけっこう学校に来ていた皆さんからすれば、「前期後半スタート」と言われてもあまり実感が湧かないかもしれませんね。その分「今日から学校！！」という抵抗もなく、スムーズに前期後半の開始を迎えることができたのではないでしょうか。

さて、７月までの生活を振り返って、以下の点については、「心機一転、気持ちを新たに」頑張ってほしいと思っています。

その１：**忘れ物**をなくす
その２：**家庭学習**に励む
その３：自分の考えを「分かりやすく**伝え**」相手の考えを「よく**聴く**」こと

今年度４月から７月までのみなさんの反省や先生方の話し合いから出てきた、ここをもっとしっかりやれば、さらに宇久中がよくなるぞ！というポイント３点です。

今までの頑張りが不足していたとは言いません。むしろ少ない人数で本当によくやっているなあと感心しているぐらいです。ただ、改善の余地はまだあるということです。

もう一度自分の生活・学習を振り返って、前期後半、そして後期に向けて目標を立て（または見直して）進んでいきましょう。

実力は発揮できましたか？

夏休みも２１日過ぎたあたりから学校で勉強している人を見かけるようになりました。課題は無事に終了したでしょうか。そして、３年生の皆さんは準備万端、実力テストを受験することができたでしょうか？

何度となく述べてきましたが、これまで学んできたことがきちんと理解できているか、身に付いているかを確認するのがテストの目的です。点数だけに目を向けるのではなく、自分の間違いの傾向をつかみ、そこから改善を図っていくころが大切です。

○全体的に満遍なく少しずつ間違えているのか、ある特定の問題を集中して間違えているのか。
○「ついうっかり」という注意不足による間違いなのか、根本的に「全く分からなかった」という間違いなのか。

さて、自分はどちらなのでしょうか。答案用紙は宝の山です。時間をかけて見直し自分の弱点補強に努めましょう。

あっと言う間に体育大会です

総練習を終え、いよいよ９日（日）は体育大会本番です。万全の体調で臨めるように体のケアをしっかりと。そして、いつもの「早寝・早起き・朝ごはん」です。

前期後半の開始にあたって

９月３日（月）は夏休み明け、前期後半の開始ということで、全校集会を開き下記の内容を骨子として、話をしました。

○夏休み前に、「この休みを活用して、次の秋に飛躍する力を蓄えてほしい」と話をしました。

○「夏を制する者は秋に伸び、秋に伸びる者は冬に耐え、冬に耐える者が春に笑う」とも伝えました。手ごたえはあったでしょうか。

○休みも終わり、前期前半のスタートです。中高合同体育大会が目前に迫り、１０月には市中体駅伝競技が行われます。夏に鍛えた体力・精神力をフルに発揮してほしいと思います。

○明日４日には中学校の先生方への公立高校入試要項の説明会が開催されます。いよいよ入試準備が本格化してきます。そして、ここから勉強に全力で取り組みだすという３年生が出てきます。「がむしゃらに頑張って力をつけようと努力する」同学年の人がいるということを念頭に、３年生は今後の取組を考えてほしい。１・２年生は頑張る３年生を手本に将来の自分を考えてほしい。

○９月１日は「防災の日」です。「自助」「共助」「公助」とあるが、まずは自分の身は自分で守る「自助」から。自然の力を決して侮ってはいけない、常に備えることが大切。

中高合同体育大会

９日（日）中高合同体育大会（於　高校）
１０日（月）９日の振替休業日
※雨天で体育大会が延期になった場合は
１０日に高校で実施（要　弁当）

体育大会については、競技等でもお世話になります。よろしくお願いいたします。

備えあれば憂いなし

９月１日は防災の日。この日はいうまでもなく 1923（大正 12）年に東京、横浜を中心とする地域を壊滅状態とした関東大震災の発生した日です。加えて台風シーズンを迎える時期でもあり、それらを踏まえて昭和 35 年からこの日を「防災の日」としています。

昭和 35 年９月１日発行の官報資料には「防災の日」の創設について、次のように記されています。

「政府、地方公共団体など関係諸機関はもとより、広く国民の一人一人が台風、高潮、津波、地震などの災害について、認識を深め、これに対処する心がまえを準備しようというのが、『防災の日』創設のねらいである。」

自然災害を 100%予測する、100%防ぐといったことはできません。しかし、東日本大震災の折も、以前から準備や訓練を重ね、それを災害発生時に着実に実行できた学校や団体、個人はいのちを守ることができています。

毎年４月と９月１日「防災の日」を区切りとして、本校でも防災計画や避難経路を見直し、生徒の連絡先に変更はないかといったことを確認するなど、万が一に備えているところです。

さて、「天災は忘れたころにやってくる」という警句で有名な物理学者である寺田寅彦はこうも述べています。

「自然は過去の習慣に忠実である。きのうあった事はきょうあり、きょうあった事はまたあすもありうるであろう。ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正当にこわがることはなかなかむつかしいことだと思われた。」▼（「天災と国防」寺田寅彦　講談社学術文庫より抜粋）